話せばわかる　―　犬養木堂　―

シラカバの木立に囲まれた別荘白林荘の周りを、長い杖をつきながらゆっくり散歩している木堂の姿があった。ここは信州・富士見高原（長野県）、八ケ岳の雄大な峰々が連なり、鳥たちのさえずりがあちらこちらで聞こえる別天地である。大正十四年、政界を退いて一か月あまり、木堂はすでに七十歳の高齢になっていた。近くの石に腰掛けながら、波乱の政治人生を振り返るのだった。

明治二十三年（一八九〇）、我が国で最初の衆議院議員選挙が行われることになり、すでに東京府会議員として活躍していた三十五歳の木堂は、岡山三区の支持者から強い要請を受け、出馬した。木堂の選挙運動はもっぱら立会演説が中心だった。一度に百六十人ほどの聴衆を集め、じっくり半日かけて議会政治の大切さを熱心に説いた。決してうまい演説ではなかったが、聞いている者の心をとらえた。第二回選挙の際には、反対勢力側のいろいろな妨害があった。演説会場や人力車などを使えなくされたり、道をふさがれたり、入場券を暴力で奪われたり・・・。

「車がなければ歩いていく、会場がなければ辻説法じゃあ。」

しかし、これがかえって岡山三区の良心的な人々の圧倒的な支持を受けることになり、連続十九回もの当選を果たした。

大正十二年（一九二三）九月一日、関東大震災が起こり、その翌日、木堂は逓信大臣となった。そして、郵便貯金

別天地…現実とかけ離れた理想的な場所。

辻説法…道ばたで往来の人に仏法を説くこと。

逓信…郵便、電信などの事務。

通帳を失った人々の善意を信じ、申し出た額(がく)での払い戻しを行った。

また、より多くの国民に選出された国会議員による政治の実現のために、普通選挙運動を展開した。そして、大正十四年（一九二五）には二十五歳以上のすべての男子に選挙権が与えられた。女子にはまだ参政権がないという不平等なものではあったが、一気に四倍も選挙人が増えることになった。

木堂は、民衆の立場になって政治を行ってきた。政治人生に悔(く)いはなかった。

「そろそろ若い者に譲(ゆず)り、自分は水先案内(みずさき)でもしよう。」

だが、岡山の支持者たちはそんな木堂を放ってはおかなかった。

「今の日本を、私たち民衆を救ってくれるのは木堂しかいない。」

「私たちの声に耳を傾けてくれるのは木堂しかいない。」

岡山の支持者たちによって、木堂は、再び政治の舞台(ぶたい)へと担(かつ)ぎ出されてしまったが、要職には就かなかった。

水先案内…船の進むべき水路を案内し導くこと。

昭和四年（一九二九）、木堂は要請され政友会総裁を引き受けた。すでに七十四歳。本来ならば孫とゆったりとした日々を過ごす年齢である。妻の千代子夫人を呼んで、「また苦労をかけるがよろしく頼む。」と一言だけ言った。しかし、目は若いころのあの熱情で輝いていた。黙ってうなずく妻も木堂の心が痛いほどわかった。だが、内心は心配でたまらない。何よりも木堂の健康が心配だった。地方遊説がつとまるのか・・・。しかし、木堂は妻の心配をよそに、北から南、南から北へと精力的にスケジュールをこなしていった。上野発の寝台特急で青森まで十六時間もかかる時代であったが、自分の生の声を伝えたかった。『木堂来る』の報に、どこの駅でも熱狂的に歓迎された。

昭和六年（一九三一）十二月十二日、天皇から大命が下りた。岡山県初の内閣総理大臣の誕生である。

翌年、政界・財界の要人に対する暗殺事件が相次ぎ、世の中には危険な空気が漂っていた。木堂のもとに防弾チョッキが贈られてきた。「命はいつ捨てても、仕方ないよ。」

木堂の思いとは裏腹に、日本は軍部が軍事力を背景に権力を掌握しようとする暗い時代へと突入していった。ますます強まる社会不安に国民はいらだち、満州国を建てた軍部は発言力を増していった。「政治家に何ができる！」若い軍人たちは血をたぎらせた。

五月十五日（日）、さわやかな朝を迎えた。青空のもと、木堂は庭に出て好きなバラの手入れをし、久しぶりにのんびり過ごした。就任以来、連日の激務だった秘書官や警備の者にも休暇を与えた。千代子夫人も、この日は外出していて、家の中はひっそり閑としていた。

政友会…立憲政友会。当時の与党。

総裁…党派の長として全体をまとめる人。

遊説…政治家が各地を演説して回ること。

大命…天皇の命令。

要人…重要な地位にある人。

満州国…昭和七年に清国の最後の皇帝宣統帝溥儀を元首として日本が満州の地（中国東北部）に建てた帝国で、第二次大戦の終結とともに消滅。

しかし、この時すでに政府のやり方に不満をもつ青年将校たちが首相官邸の襲撃を開始していた。護衛官が飛んできて、金切り声を上げる。

「警官がやられました。逃げてください。早く、早く。」

「なぁに、心配はいらぬ。会って話を聞こう。」

木堂は全く動じなかった。そこへ、拳銃を手にした軍人たちが飛び込んできた。

「まあ待て、騒がんでも話せばわかる。撃つのはいつでも撃てる。あちらへ行って話を聞こう。」

「問答無用！」バン、バーン！

木堂は全国の支持者の願いもむなしく、七十七歳の生涯を閉じた。

生家の庭には、初当選を記念して植えられたクスノキが何事もなかったように揺れていた。

官邸…公務を行うための住宅。

犬養 毅（木堂）略年譜

一八五五　備中国庭瀬村字川入（現在の岡山市北区川入）に生まれる。
一八六八　十三歳　父が病死。
一八七二　十七歳　小田県庁地券局（現在の岡山県笠岡市）に勤務。
一八七五　二〇歳　上京。共慣義塾を経て、翌年、慶応義塾に転学。
一八七七　二二歳　西南戦争の従軍記者として特派され、その現地ルポ「戦地直報」で名声を博した。
一八八二　二七歳　東京府会議員に当選。
一八九〇　三五歳　第一回衆議院議員総選挙に岡山県三区から立候補し、当選。〔以来連続十九回当選〕
一九二四　六九歳　加藤内閣の逓信大臣。
一九二五　七〇歳　五月大臣及び議員を辞職。七月補欠選挙で再選され、余儀なく受諾。
一九二九　七四歳　政友会総裁。
一九三一　七六歳　十二月内閣総理大臣に任命され、犬養内閣を組閣。
一九三二　七七歳　五月十五日首相官邸で凶徒に襲われ、夜半に死去。

岡山県道徳教育郷土資料集（中学校）　指導案　「話せばわかる―犬養木堂―」

1　主題名　　社会連帯の自覚〔C　社会参画、公共の精神〕

2　ねらい

死に直面しても、一人一人がよりよく暮らすことができる社会の実現を目指した犬養木堂の生き方を通して、自分が理想とする社会の実現を目指して前向きに生きることの素晴らしさに気付き、よりよい社会の実現に向けて、自分たちができることから実践しようとする態度を養う。

3　主題設定の理由

(1) 内容項目について

本時で取り上げる内容項目は、C社会参画、公共の精神「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること」である。

一人一人の個性を尊重し民主的な社会を築くためには、社会を構成する多くの人々と助け合い励まし合いながら社会連帯を深めることが求められる。「社会連帯の自覚」とは、社会生活において、一人一人が共に手を携え、協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていこうとすることである。

第１学年では、自分も社会の一員であるという自覚をもって、積極的に協力し合おうとする態度を養っていきたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、時事的な出来事についての関心が比較的高く、よりよい社会を協力して築こうとする態度が少しずつ育ってきている。しかし、出身小学校が多岐に亘っていることもあり、人間関係が成熟しておらず、他者に対する配慮を欠き、公の場で自己中心的な言動をとってしまうこともある。

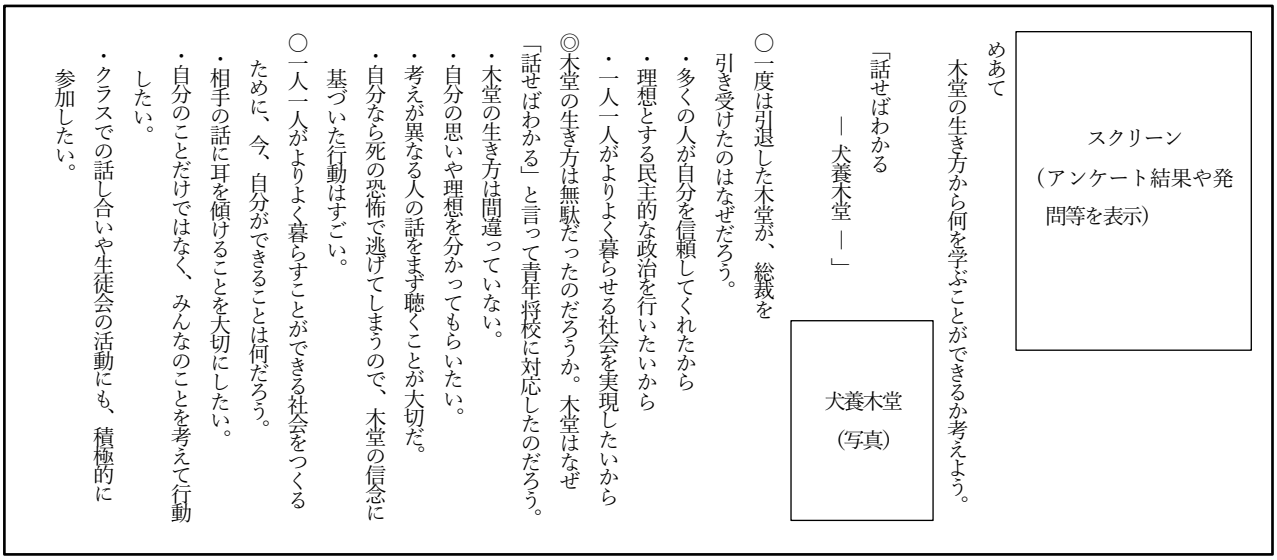
そこで、人間としての生き方や社会のあり方について深く考えることで、よりよい民主的な社会を実現するために、積極的に協力し合おうとする意欲を育んでいきたい。

(3) 教材について

本教材は、「憲政の神様」と呼ばれ、明治・大正・昭和の激動期を政治一筋に生きた犬養木堂の生涯を取り上げたものである。

様々な妨害にも屈しないで、平和で平等な社会の実現を目指した木堂の生き方に共感できるようにし、このような木堂の生き方から学んだことを今後の生活にどう生かしていくか考える問題解決的な学習を通して一人一人がよりよく暮らすことができる社会の実現に向けて、自分たちができることから実践しようとする意欲をもつことができるようにしたい。

4　板書例



5　他の教育活動との関連

社会科【歴史的分野】(近代の日本)　【公民的分野】(民主政治)

総合的な学習(キャリア教育)

6　学習指導過程

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
1　犬養木堂について話し合い、本時のめあてをつかむ。	○　犬養木堂についてのアンケート結果から、どのような印象をもったか。 ・明治時代に活躍した人 ・岡山県(岡山市)出身の政治家 ・岡山県初の内閣総理大臣 ・憲政の神様と呼ばれるほど優れた政治家だった。 ・どんな生き方をした人なのか詳しく知りたい。	・事前にアンケートを実施し、生徒のレディネスを把握しておく。 ・端末のアンケート機能による事前アンケートの結果を紹介し、「犬養木堂」の現時点での認識を共有させる。
	木堂の生き方から何を学ぶことができるか考えよう。	
2　教材「話せばわかる－犬養木堂－」を読んで、木堂の生き方について考え話し合う。		・木堂は民主政治を目指したが、五・一五事件によって志半ばで暗殺されたことを押さえる。
(1) 木堂が総裁を引き受けた理由	○　一度は引退した木堂が、総裁を引き受けたのはなぜだろう。 ・多くの人々が自分を信頼してくれたから。 ・自分が理想とする民主的な政治を行いたいから。 ・もう少し民衆のために働こうと考えたから。 ・一人一人がよりよく暮らせる社会を実現したいと考えたから。	・ワークシートに総裁を引き受けた理由について記入させ、自らの考えの根拠を明確にさせる。
(2) 軍人が襲撃した際の行動	◎　木堂の生き方は無駄だったのだろうか。木堂はなぜ「話せばわかる」と言って青年将校に対応したのだろう。 ・木堂の生き方は間違っていない。自分の思いや理想を分かってもらいたいから話し合おうとした。 ・自分とは考えが異なる人の話をまず聴くことが大切だと考えていた。 ・腹を割って話せば、きっと理解し合うことができると考えていた。 ・自分なら死の恐怖で逃げてしまうので、木堂の信念に基づいた行動はすごいと思う。	・端末を使って回答させることで、学級全体で意見を共有できるようにする。 ・死を覚悟しながらも一人一人がよりよく暮らすことができる社会の実現を目指していた木堂の生き方に共感できるようにする。
3　木堂の生き方から学んだことを今後の生活にどう生かしていくか考え話し合う。	○　一人一人がよりよく暮らすことができる社会をつくるために、今自分たちができることは何だろう。 ・木堂のように相手の話に耳を傾けることを大切にしたい。 ・自分のことだけを考えるのではなく、みんなのことを考えて行動したい。 ・クラスの中やまわりで困っている人を助けたい。 ・クラスでの話し合いや生徒会の活動にも積極的に参加したい。	・一人一人がよりよく暮らすことができる社会をつくるためには、自分たちができることについて考え、行動することが重要であることを押さえる。
4　まとめをする。	○　よりよい社会をつくるために身近で小さなことから実践している活動を紹介する。	・木堂の意思を受け継ぐためにも、まずは身近な実践から始めていこうという意欲につなぐようにする。
評価の視点	・話し合い活動を通じて、犬養木堂の生き方について考え、理想の社会の実現を目指して前向きに生きることの素晴らしさに気付くことができたか。 ・私たちが暮らす社会に目を向け、一人一人がよりよく暮らすことができる社会の実現に向けて、自分たちができることから実践しようとする意欲をもつことができたか。	

7　参考資料

(1)　犬養木堂

・「憲政の神様」

犬養毅は、号を木堂と称し、明治中期から昭和初期にかけて政党政治の確立に貢献した、清廉潔白で非常にすぐれた政治家であった。「話すこと、議すること」を信条とする議会政治家であった。書にも優れ、中国の政治家との親交も深く、情に厚い政治家としても知られている。

・ジャーナリストとしての木堂

明治10年（1877年）西南戦争の従軍記者として発信した記事「戦地直報」で記者として名を博す。明治13年（1880年）８月に「東海経済新報」を創刊。明治15年（1882年）に立憲改進党結成の計画に加わるとともに、「郵便報知」の有力記者となる。明治16年（1883年）に「秋田日報」主筆となる。明治19年（1886年）朝野新聞に入社、幹部として活躍。

・政治家としての木堂

明治23年（1890）第一回衆議院議員選挙で岡山から出馬して当選、以後暗殺されるまで連続19回当選（補選を含む）し、立憲改進党、立憲国民党、政友会等に所属。この間、大隈内閣の文部大臣、第２次山本内閣の逓信大臣兼文部大臣、加藤内閣の逓信大臣などを歴任した。

・五・一五事件

昭和６年（1931年）12月、76歳のとき第29代の首相となり、経済不況、満州事変の収拾などの難局にあたった。しかし、当時は軍国主義の高まる時期で、翌年５月15日、有名な「話せばわかる」という言葉を残し、首相官邸において海軍青年将校の凶弾に倒れた。この犬養首相の死で昭和戦前の政党政治に終止符が打たれた。

(2)　犬養木堂記念館

所 在 地:岡山市北区川入102-1　TEL（086）292-1820
開館時間:９時～17時（入館は16時30分まで）
閉 館 日:毎週火曜日（祝日は除く）、祝日の翌日（土・日は除く）、年末年始
入 館 料:無料
駐 車 場:あり

＊記念館は木堂の生家の隣に作られている。様々な関連資料が展示されている。動画を観たり、木堂の肉声を聞いたりすることもできる。総合的な学習の時間などに発展させるときも有効に活用できる施設である。

・犬養木堂記念館ＨＰ　https://inukaibokudo.jp

(3) 生徒の感想より　～一人一人がよりよく暮らすことができる社会をつくるためには～

・暴力や力で問題は解決しないと思うので、犬養さんのように相手の話に耳を傾けるということを大切にしたい。お互いの意見を尊重できるような社会になればいいなと思う。
・犬養木堂さんを見習ってまず人の意見を聞き入れ、それを活かせるようにしたい。自分ひとりでは判断を誤ることもあるかもしれないし、多くの意見がある方が多くの選択肢が生まれるから。
・相手の意見を聞くことだと思う。自分の意見ばかりを押し付けてもあまり良い印象もないし、もし相手がとても良いアイデアを持っていたらもったいないと思うから。
・よりよいものをつくるにはいろんな意見を聞くべき。だから普段から人の話に耳を傾けたい。
・意見が相手と異なっても、否定するのではなく自分の考えも伝えて相手の意見を尊重することが大切だと思う。
・自分の考えや意見などを暴力的に伝えるのではなく、きちんと言葉にして伝えること。
・自分の考えだけを相手に押し付けるのではなく、きちんと相手の意見も聞いて双方が納得いくような解決を目指すこと。
・よりよく暮らすことができる社会は温かい社会だと思うので、人との交流を大切にし、挨拶をしたり、喧嘩したときも言葉で解決したりする。

(4) 参考文献

・『話せばわかる－犬養毅とその時代－』（山陽新聞社）
・『新聞記事と写真で見る世相おかやま』（山陽新聞社）
・『（マンガ）犬養木堂』南一平　画（岡山県郷土文化財団）
＊山陽新聞社刊「学習漫画岡山の歴史第15巻より抜粋編集したもの。
・『（ビデオ）犬養木堂』（岡山県郷土文化財団）